

第2次
滝川市環境基本計画・地域行動計画

年 次 報 告 書
(令和2年度版)

滝 川 市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）では令和7年度を目標年度とし、平成28年3月に策定し滝川市がどのような取組を行っているか、また、実際にどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することを取り決めています。この報告書は、その一環として、前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。なお、中間年にあたる令和2年3月には、計画の見直しをしています。本年次報告書の目標値等につきましては、当初計画の数値を使用しています。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げ、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む
『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく、資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では令和7年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
省エネモニターのCO ₂ 排出量	年平均1%減	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	—
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	150校	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 令和2年度における数値目標の達成状況について

市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（令和7年度時点）	500 g / 人・日
実績値（令和2年度）	577 g / 人・日

リサイクル率

目標値（令和7年度時点）	25.0%
実績値（令和2年度）	20.1%



令和2年度の評価

昨年度はコロナ禍による外出自粛の影響で、事業系のごみが減少してます。一方、家庭系のごみは、家で過ごす時間が多くなったことから、片づける機会が増えたと推察され、特に粗大ごみが増えました。

資源回収は容器の材質変更や容器そのものの軽量化の影響もあり、収集量は減少傾向にあります。

区分		単位	元年度	2年度
収集人口 ①		人	39,414	38,929
収集世帯		世帯	21,189	21,128
家庭系	生ごみ	t	1,585	1,540
	燃やせるごみ	t	5,189	5,239
	燃やせないごみ	t	466	469
	粗大ごみ	t	842	957
	資源ごみ	t	603	635
	計 ②	t	8,685	8,840
事業系	生ごみ	t	1,491	1,476
	燃やせるごみ	t	2,363	2,148
	燃やせないごみ	t	89	72
	粗大ごみ	t	152	137
	資源ごみ	t	64	57
	計 ③	t	4,159	3,890
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	486	432
	生ごみより回収 ※H29年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	449	446
	資源ごみより回収	t	640	664
	計 ④	t	1,575	1,542
資源回収	拠点回収	t	78	88
	集団資源回収	t	1,374	1,199
	資源回収の合計 ⑤	t	1,452	1,267
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	14,296	13,997
埋立処分量		t	864	971
リサイクル率 (④+⑤) / ⑥		%	21.2	20.1
市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系※1）		g	560	577

※1 資源ごみ及び資源回収除く

2 令和2年度における主な取組について

- (1) 市民運動エコライフたしかわ(＝エコたき)の推進
 滝川市では、新しい市民運動として、平成28年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」を推進しています。

令和2年度は「エコたき」の基本となる「エコたき4か条」の「コ(ゴミを減らして快適ライフ)」を重点目標とし、環境学習リーダー等の実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防のため実施を見送りました。



- (2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付するものです。

実施団体数 延べ293団体(前期145団体、後期148団体)

奨励金交付額 240万円(前期121万円、後期119万円)

単位：t

		元年度	2年度
区分	紙パック	4	5
	紙類	1,060	921
	びん類	136	126
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	94	74
	ペットボトル	79	73
	その他	X	X
	計	1,374	1,199

※四捨五入等の関係で計は一致しない。

- (3) カレンダーリサイクル事業

カレンダーリサイクル事業は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催を見送りました。

- (4) 滝川市リサイクルフェア

空知自動車学校の「WaiWai フェスタ」と合同開催の滝川市リサイクルフェアは、新型コロナウイルス感染予防のため、開催を見送りました。

- (5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみ減量推進の一環として、製品等の再利用(リユース)の円滑化を図るべく、市内で古物商を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：7店舗

- (6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を滝川市役所や旧粗大ごみ処理センター(中島町210)、江部乙支所で行いました。

令和2年度の回収量は約6 tで、前年度と同程度となりました。

(7) 小型電子・電気機器の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった小型電子・電気機器の拠点回収を滝川市役所と江部乙支所、まちづくりセンターで行いました。

令和2年度の回収量は約42 tで、前年度より約15 t増となりました。

(8) 雑がみの回収について

燃やせるごみの削減及び資源循環促進の一助として平成26年4月から、新たに「雑がみ」を資源ごみに加えました。

令和2年度の回収量は約13 tで、前年度より約1 t減となりました。

(9) たきかわクリーンデイの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境保全への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデイ」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき実施しています。

例年は春と秋の2回実施していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため春は「クリーンデイ」を設定せず、秋のみの実施としました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
秋	10月3日～10月25日	66 団体 (町内会：60、事業所：4、団体：1、学校：1) ボランティア袋配布数：40 リットル／1,365 袋 20 リットル／ 584 袋	2,358 人

(10) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は、住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。なお、クリーンデイに参加される方にも配布しています。

※令和2年度は、8,132 枚（40 リットル／5,142 枚、20 リットル／2,720 枚）を配布。

ごみ回収のその後はどうなってるの？ そんな疑問にズバリとお答えします。

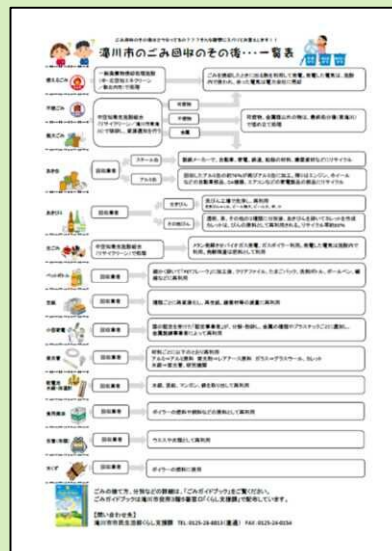
滝川市のごみ回収のその後・・・

ごみの分別が大事なのは理解できるけれど、分別されたごみは一体どうなっているの？という市民の皆さんからのお声を受けて、右記一覧表を作成し、ホームページに掲載しています。

皆さんにご協力いただき細かく分別されたごみが、どのように処分やリサイクル等されているのかをぜひ一度ご確認ください。



滝川市ホームページ→組織案内→
くらし支援課→ごみ処理関係→
「ごみ回収のその後・・・一覧表」



(2) 地球環境（地球全体の問題）

1 令和2年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターのCO₂排出量

目標値 年平均 1 %削減

実績値（令和2年度）

前年比 —

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均 1 %削減

実績値（令和2年度）4,515_{kl}

※前年比 102.9%

※原単位とは施設の延べ床面積あたり



令和2年度の評価

日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICE でエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者在省エネルギーやゴミ削減を主としたCO₂削減活動に努めるよう周知しました。

今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業を継続して行うほか、ホームページや新聞などを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。

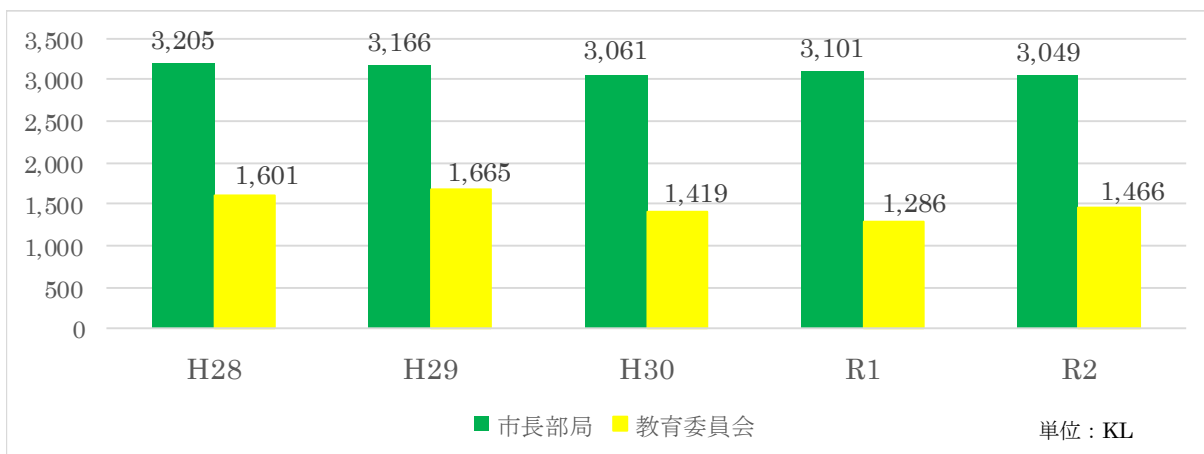
- (1) 各家庭の生活の中でエネルギー消費を意識し、効果的な省エネルギーにどのように取り組むべきかを考えていただけるよう、一般市民を対象に省エネモニターを実施してきましたが、生活スタイルの変化等により適正な状況の判断が出来なくなったことから、令和元年度で省エネモニター調査を終了しました。

- (2) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で令和2年度1年間に消費したエネルギー量は、原油量に換算すると4,515キロリットルになりました。

特に、教育委員会部局での増加が見られますが、これは新型コロナウイルス感染予防のため換気に努めた結果によるものです。

滝川市の公共施設エネルギー消費量（1年間に消費したエネルギー量を原油量に換算）

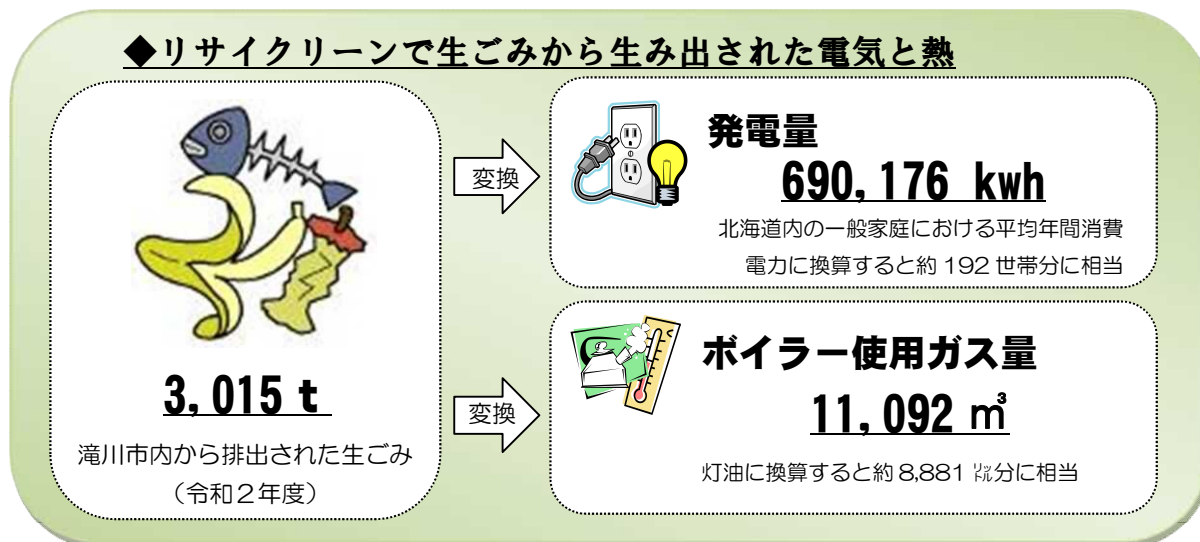


(2) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同運営）では、各市町で分別回収された生ごみ（一般廃棄物）からメタンガスを取り出しています。

メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電気や熱に変換され施設運営等に活用されています。



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(61.7%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は、石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電気や熱に変換して利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量 (t)	2,830	1,180
II メタンガス発生量 (m³)	1,450,000	604,070
III メタンガス使用量 (m³) →メタンガス発電等として利用	1,387,000	577,830
IV 発電量(kWh)	1,559,000	649,480

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 180 世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（5市9町により組織）が設置、管理及び運営している、歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理されます。

施設では、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電しています。発電した電気は施設内で使われ、余った電気は売却し有効活用しています。

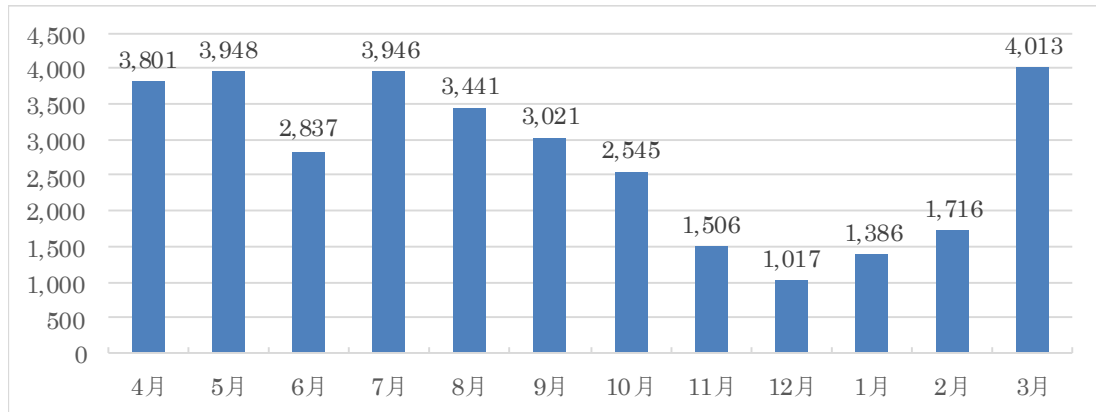
	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量 (t)	23,415	8,463
II 可燃ごみ焼却量 (t)	22,732	8,216
III 発電量 (kWh) →売電 (kWh)	10,991,752 →6,680,090	3,972,804 →2,414,418

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,104 世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

(3) 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成22年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量も集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。



※発電量合計は、集計機器トラブル等により、一部の施設の数値が反映されていません。

i) 滝川市役所



- ・出力：5kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3,809.1kWh
- ・設置年月日：平成22年12月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23,312.6kWh
- ・設置年月日：平成22年12月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6,050.4kWh
- ・設置年月日：平成22年7月

iv) 滝川第三小学校



- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10,030.8kWh
- ・設置年月日：平成27年3月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12,888.91kWh
- ・設置年月日：平成27年4月

(4) 町内会街路灯切替促進補助金

町内会等が維持・管理する街路灯を LED に切替促進促進するための補助金を支出します。

令和 2 年度実績：367 灯

※街路灯の LED 化率 76.8% (LED：4,569 灯、LED 以外：1,377 灯 合計 5,946 灯)

(5) 市内コミュニティセンター等の照明を LED へ切替しました。

コミュニティセンタ名	場所	切替数
緑地区コミュニティセンター	児童室	8 基
	第 1 研修室	12 基
	第 2 研修室	6 基



(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 令和2年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成28年度～令和7年度累計） 8,700人

実績値（平成28～令和2年度累計） 10,422人

○NPO法人まち・川づくりサポートセンター

・石狩川クリーンアップ作戦／120名

・WETプログラム／3,092名

○江部乙丘陵地のファンクラブ

・フットパス参加者／82名



令和2年度の評価

「たきかわエコネット」の自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施などは、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために重要なものです。

今後も、民間団体や教育機関等との相互協力を進めながら、継続的に取り組んでいきます。

農業体験授業（事業）実施校数

目標値（平成28年度～令和7年度累計） 150校

実績値（平成28～令和2年度累計） 78校

○令和2年度の実施校17校（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、中央保育所、二の坂保育所、第一小学校、第二小学校、第三小学校、東小学校、西小学校、江部乙小学校、明苑中学校、江陵中学校、開西中学校、江部乙中学校

2 令和2年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

①農業体験の推進

グリーンツーリズムに係る取組

「そらちDEい～ね」を介した受入事業

時期 令和2年10月13日～14日

参加人数 1校8人

受入農家 1戸

(2) 川との共生に向けた取組

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組

①「滝川地区地域防災施設（川の科学館）」来館者への普及活動

来館者：2,890人

②滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習

プロジェクト WET

たきかわエコネット

7) 流水実験

実験装置による流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の流れを比べ、流れる水の働きによる地形の変化を実験装置で分かりやすく説明した。

また、水量が増える原因やその結果についても考えてもらい、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにした。

（参加人数 581 名）。



8) 自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川である。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の流れ方の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明した。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づいてもらえるように説明した。

（参加人数 581 名）。



9) 水の環境学習

地球上を取り巻く水や地球環境について体験的に学ぶ活動として、いくつかのアクティビティを行った。「驚異の旅」「水のババ抜き」「青い惑星」など手軽に出来るものを準備して行った。

（参加人数 636 名）。



エ) 石狩川 1/1000 模型で調べよう(リバーワーク)

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり笹舟をながしたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら確認したり水と触れ合ったりしていた。

（参加人数 1,172 名）



わ)川から自然環境を考える活動（川下り）

川から見る自然を体験してもらうため、Eボート（10人乗りのゴムボート）による川下りを実施した。参加者には、石狩川や支流の空知川下りを通して、河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりしてもらうことを期待している。

参加者は、川底の太い流木や川岸の漂流物、浮遊するプラスチックゴミなどを目の当たりにし、水災害の恐ろしさや川のゴミは街からのゴミであること、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せていた。

また、空知川では、今では採炭されなくなった石炭の大露頭を川から見ることができ、地域の産業遺産にも関心を持っていた。

（参加人数 80 名）



か)人材の育成

今年度は、コロナ禍のため思うように川の活動ができなかったが、ボランティアスタッフの技術講習会を行った。万一に備えた救助訓練や川下りに備えたボートの操作訓練を行った。

流況が違う石狩川および空知川で講習会を行ったが、川は季節や天候、上流の状況によって変化するので訓練を繰り返すことが大事であることを実感した。

（参加人数 42 名）



わ)環境美化活動

石狩川クリーンアップ作戦

開催日 令和2年6月28日

参加人数 12団体約120名

内容 私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい空間になるように、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行った。

今年は、子供連れの参加が多く、幼少期から環境保全活動に関わることは、将来の河川環境を考える上でも好ましい。



上記、ア)～キ)は「NPO まち・川づくりサポートセンター」から報告を受けた文書を転記しております。

※ プロジェクトWET (Water Education for Teachers) とは…

世界 66 以上の国と地域で活用されている水教育プログラム「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが得られるように開発され、アクティブ・ラーニングの視点と合致するツールです。

（出典：公益財団法人河川財団プロジェクト WET ジャパン）

(3) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

フットパス (4回)

開催日 令和2年5月24日～

令和3年2月28日

内容 江部乙丘陵地を歩いて、
自然観察等を行った。

参加人数 延べ82人

自然観察会 (4回)

開催日 令和2年4月26日～

令和3年3月14日

内容 自然観察の森ほかで、自然
観察等を行った。

参加人数 延べ48人



○民間団体の活動のピックアップについて

「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」は、市内で活動する民間団体として、それぞれ特色ある取り組みを展開していることから、目標3『自然環境・農業（自然・農業の保全）』を積極的に推進する団体として取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット(P15 参照)にも記載されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後もピックアップしていきたいと考えていますので、「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。



(4) 環境コミュニティ

1 令和2年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成講座受講者数

目標値（平成18年度～令和7年度累計） 350 人
実績値（令和2年度累計） 316 人
（うち令和2年度 0人）

環境市民大会※における参加者の平均評価点

目標値 85 点以上
実績値（令和2年度） 一点

令和2年度の評価



先生役となる若い世代の高校生が、環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋げることが期待できます。

さらに、環境学習リーダーも様々な人との関わりや人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材に成長する貴重な場になっています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため実施を見送りましたが、今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、より多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきます。

2 令和2年度の実施状況について

(1) 環境学習リーダー

次世代を担う高校生が、専門的な講座受講や子ども達へ教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施予定でしたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施を見送りました。

(2) 環境学習リーダーAdvance

昨年度、環境学習リーダーとして活動した高校生の中から環境学習に興味を持つ生徒が、北海道環境財団が実施する専門的な環境講座を受講し、小学生向けの体験型環境学習事業の企画・運営を実施予定でしたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施を見送りました。

(3) 環境市民大会

令和2年度は北海道地球温暖化防止活動推進員を講師としてお招きし、環境問題について講演いただく予定で進めてましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、実施を見送りました。

(4) 滝川イオンチアーズクラブ活動展示

開催日：令和2年5月28日～
6月22日

場所：滝川市立図書館

内容：太陽光利用について、ソーラーパネルを主題に、仕組みや発電量などを調査し、さらに、こども科学館で太陽に関する実験行い、壁新聞風にまとめ、環境月間に合わせて展示した。



(5) 環境教育講座

主催 開西中学校
講師 北海道地球温暖化防止
活動推進員

開催日 令和3年2月12日

場所 滝川市立開西中学校
体育館

参加人数 1年生 45名

内容 中学3年間で学ぶ「環境保全」に対する意識を高めることを目的とする。



たきかわエコネット登録団体：8団体(令和3年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
「緑とエコ」サポーターネット 	当会は平成13年6月10日に行われた「石狩川ルネサンスの森」の創設時に、森林の持つ多様な機能の育成と緑によるゆとりと潤いのある環境の整備を図り、循環型社会づくりを進めることを目的として設立しました。 これまでの主な活動は、毎年行われる「石狩川ルネサンスの森」整備事業であり、その他には、石狩川の水源の1つである南富良野町の「かなやま湖」で「水源の森創造交流会」などを行っています。	日本野鳥の会滝川支部 	滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動を続けています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。 また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。
江部乙丘陵地のファンクラブ 	江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。	たきかわ環境フォーラム 	市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ！」。 私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながらか、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。
滝川消費者協会 	本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。	滝川おもしろ食育塾 	滝川市内の未成年者の農業体験を主軸とする食育教の企画、現場活動を行っています。 中空知で生まれ育った子供たちが、命をつなぐ食と人との関わりを五感で感じることや、故郷の農村に誇りを持っていただくことなど、その後に良い影響を受けてもらうことを目標に活動しています。
手紬染織工房たきかわ 	滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作って織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。	まち・川づくりサポートセンター 	石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援（レスキュー訓練、舟漕ぎ大会）、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成（RAC、CONE、プロジェクトWE T・ワイルド・ラーニングツリーなど）

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21 世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成 15 年 1 月 1 日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(令和2年度版)

令和3年7月28日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.lg.jp